

## 中国ネット通販型ライブ配信における多層的参与枠組み

CHEN XINYI (鹿児島大学大学院)

### 発表要旨：

本発表の目的は、中国におけるネット通販型ライブ配信の相互行為場面を対象に、Erving Goffman (1981) の参与枠組み理論に基づきつつ、ライブ配信に見られる参与枠組みの多層性を示すことである。ライブ配信は、配信者が映像・音声をリアルタイムで配信し、視聴者と双方向的なコミュニケーションを行うオンライン・コミュニケーションの一形態である。従来の研究では、ライブ配信の相互行為は主に「配信者－視聴者」という二者関係として捉えられてきた。しかし、実際のライブ配信の相互行為場面にみられる、画面上には登場しない人物である現場スタッフの参与、および視聴者の内部の多層性が見落とされてきた。こうした要素を考慮しなければ、ライブ配信に固有の相互行為の実態を十分に捉えることはできない。Erving Goffman (1981: 131-133) は、相互行為における話し手 (speaker) と受け手 (recipient) に多様な参与役割の存在を想定する参与枠組みの考え方を提唱している。この枠組みは、参与者の役割の差異と可変性を考慮することで、相互行為のダイナミクスを精緻に記述することを可能にする。

本研究では、この理論枠組みに基づき、ライブ配信の相互行為を「配信者－視聴者」という単純な二者関係としてではなく、多層的な視聴者の存在および現場スタッフの参与を含む多層的な参与者構造として捉える。分析の結果、関与度および進行中の出来事に関する文脈共有度の差異に応じた多層的な視聴者の存在が認められる。さらに、ライブ配信の視聴者は、テレビ視聴者のような想定上の受け手ではなく、画面操作を通じてリアルタイムに反応を示し、その反応がデジタル情報として配信者に把握されうる「生」の受け手であることが明らかとなった。配信者は、このような異なるステータスの視聴者に応じて、発話のデザインを動的に調整している。一方、画面上に登場しない現場スタッフも、配信者と視聴者のコミュニケーションに組み込まれる形で参与している。すなわち、配信者は媒介者として機能し、視聴者とのやりとりに現場スタッフを、また現場スタッフとのやりとりに視聴者を組み込むことで、複数の「声」を「埋め込み(embedding)」(Goffman, 1981: 147-156)ながら配信を進行している。

以上より、本研究は、従来の「配信者－視聴者」の二者構造を超えて、視聴者内部の多層性および現場スタッフの参与を取り入れることで、中国のネット通販型ライブ配信における参与枠組みの多層性を示した。配信者が単一の声を発する主体ではなく、複数の参与者の声を調整・統合することによって、ライブ配信という相互行為の場を達成していることが明らかとなった。

### 参考文献：

- Goffman, Erving(1981). *Forms of talk*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.  
片岡邦好・池田佳子・秦かおり (編) (2017) . コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性— くろしお出版.